

企業紹介

生産者の真心こもった青果物を
より新鮮に、より早く、より確実に

 長岡中央青果株式会社

代表取締役 高橋 堅二
〒940-2127 長岡市新産1-1-15
TEL 0258-46-2000 FAX 0258-46-6919
<http://nagaokachuoseika.co.jp/>

業 種：生鮮青果物卸売
資 本 金：6,000万円
取扱品目：野菜、果物、加工品、花

全国各地の生産者から青果物等を大量に集荷し、仲卸業者や小売業者に販売する青果卸売市場は、消費者に安定的に生鮮食料品を供給するために欠かせない存在だ。長岡中央青果(株)は、長岡市で主に野菜や果物を扱う卸売市場を管理運営する。平成14年には全国で初めて公設市場を民営化。農業の活性化と野菜・果物等の消費拡大に向けて、様々な取り組みを行っている。

全国で初めて公設市場から民営化

同社は、昭和42年にこれまで卸売業務を行っていた3社が合併し、創業。新たに長岡市が開設した公設市場にて、卸売会社として青果物等の流通の中核を担ってきた。その後、平成14年には、全国で初めて公設市場を買い受け、民営化を果たした。

同社の主な業務は、売り手である各地の生産者から青果物等を集荷し、需給バランスに応じて価格を設定、価格が付いた品物を買入手である仲卸業者や小売業者に提供すること。ただし、価格設定はこれまでは複数の買い手が値段を競い合う「競り」が一般的であったが、最近では、スーパー等の台頭などから、売り手と買い手が1対1の話し合いで取引する「相対取引」が大半を占めている。



▲長岡市新産の同社社屋



▲卸売市場内は早朝から活気に溢れる

商社のような役割を果たす

卸売業は安定的に必要な数量を供給するために、事前に消費動向や青果物等の生育状況などを把握していなければならない。常に情報収集が欠かせない。「現在の卸売業者には、生産者や小売業者から入ってくる情報を整理してさばく能力と、生産側には市場動向を伝え、小売側には食べ方の提案などを行う提案型営業が求められる。まるで商社のような役割を果たしています」と高橋社長は語る。

さらに、同社では、7年ほど前から卸売市場内で、模擬競りや農家の朝取り野菜販売、ジャム作り講習会などのイベントを開催。農家と消費者が顔の見える交流の場を提供している。



▲長岡野菜の代表格「巾着なす」。果実が堅くてしっかりしている。蒸かしたり、焼いて食べると甘みが増す

長岡野菜の普及活動

また、同社では、地元のみで食されてきた「長岡野菜」の保存と普及を目的に「長岡野菜ブランド協会」を平成10年に設立。イベント等を通して普及活動を行ってきた。現在では、こうした取り組みが奏功し、市内の小中学校の給食やホテルでも食材に利用されるようになり、需要が徐々に広がっている。